

平成29年10月30日

各 部 室 か い 長 様

財政部長 前 田 孝 一

# 平成30年度予算編成方針について

## 1 国の動向

国の平成30年度予算は、「経済再生なくして財政健全化なし」との基本方針の下、600兆円経済の実現と平成32年度の財政健全化目標の達成の双方の実現を目指し、歳入・歳出両面における取組を進めるとしているが、消費税増税が予定される中で、その財源の活用に併せてプライマリーバランスの黒字化の先送りが改めて検討されています。

また、国の経済状況は、平成29年10月の月例経済報告によると「景気は緩やかな回復基調が続いている。」とされているが、潜在成長力の伸び悩み、将来不安からの消費の伸び悩み、中間層の活力低下といった課題を抱えており、こうした課題に対する取組を構造改革の好機として捉え、人的資本の質を高め、潜在成長力を引き上げていく必要があるとしています。

地方行財政等については、地方公共団体の基金や行政サービス水準の地域格差等の状況を含む地方単独事業の実態把握と、「見える化」等を通じた改革を推進するほか、地方交付税に関しては、地方創生の取り組みの成果の実現具合等を踏まえた見直しを進め、重点課題対応分に関連する諸施策について、翌年度以降の施策の在り方を検討した上で所要の措置を講じることとしています。

## 2 本市の財政状況

本市の財政状況は、平成29年第3回定例会補正後の予算ベースで、17億7,000万円の収支不足を財政調整基金の取り崩しにより収支均衡を図っているところですが、一方で、財政調整基金の残高は17億5,000万円と前年同時期よりも大きく減少しています。

また、現在作成中である本市の今後5年の「中期財政収支見通し」においても、多額の収支不足が見込まれており、本市財政は極めて厳しい状況が続くものと想

定されます。

こうしたことから、改めて歳入に見合った歳出が予算の基本であるということを職員全員が認識し、全ての事務事業について、その必要性や事務執行に無駄が無いのかについて検証を行うなど、真の財政再建に向けた取組が必要です。

### 3 予算編成の基本方針

以上のような状況等を踏まえ、平成30年度の予算編成に当たっては、以下の点を基本方針として取り組むこととします。

- ① 「真の財政再建」に向けて、健全化の取組を継続していく必要があることから、職員一人ひとりが「最少の経費で最大の効果をあげる」ことを意識し、歳入の確保はもとより、歳出全般にわたり徹底した見直しにより、収支改善の取組を引き続き強力に実行することを基本とすること。
- ② 限られた財源を効率的・効果的に配分し、真に必要なニーズにこたえるため、施策の優先度を部内において徹底的に議論した上で事業の重点化を行うこと。
- ③ 既存の全ての事務事業について、事業目的や実施理由を再確認し、必要性・有効性を厳しく検証するとともに、職員の能力を十分に活用して行政サービスのコストの低減や質の向上を進めることを念頭に置きながら、ゼロベースで見直しを行い要求すること。
- ④ 新規及び拡充の事業については、各部において限られた財源で最大の効果を生み出すよう、「別途通知」による予算要求基準額内においてスクラップアンドビルドを徹底して行うこと。また、公益性はもとより、その必要性、緊急性などを十分に検討するとともに、既存事業の廃止・縮小・全体計画の見直しによる財源の平準化などにより財源を確保し要求すること。  
特に市単独事業については、その費用対効果を十分に検討した上で要求すること。
- ⑤ 市として一体的な施策を推進するため、各部間の連携・情報交換を密に行い、類似した施策の整合性に留意するなど、事業調整を図ること。
- ⑥ 「第6次小樽市総合計画実施計画」、「小樽市総合戦略」及び「小樽市過疎地域自立促進市町村計画」の着実な推進を図ることが必要であり、そのためには各計画との整合性に留意するとともに、検証等を加え、事業の効果が最大限発揮できるよう創意工夫した上で要求すること。
- ⑦ 起債対象事業については、交付税措置のある有利な市債を有効に活用するとともに、後年度負担の抑制を図るため、市債の借入総額を元金償還額以下とするな

ど、既に計画されている事業であっても改めて緊急性や優先度などを十分に検討した上で要求すること。

- ⑧ 国及び道の行財政制度や財源措置などについては、その動向に十分留意し、歳入欠陥が生じることのないようにすることとし、財源が廃止又は縮減されるものは、必ず事業の効果などを検討した上で廃止又は縮減を行うこと。
- ⑨ 非常に厳しい予算編成となることが予想されることから、要求基準額の範囲内であっても、さらなる査定が必要になるものと考えているので、各々の職員がこの厳しい財政状況を再認識した上で上記各事項に留意し、適切に要求すること。